

# 総合型選抜(総合評価型) サンプル問題

---

## 国際日本学部 (試験問題：90分)

・サンプル問題として2025年度AO入試または公募制推薦入試の過去問題を使用している場合があります。なお、解答・解説は公開していません。

2026年度 神奈川大学 総合型選抜（総合評価型）（サンプル問題）

## 【小論文】

国際日本学部 国際文化交流学科

〔試験時間 90 分〕

日曜日の朝は、目覚ましをかけてないのになぜか早く目が覚めてしまうことがあります。

そんなときは、NHK E テレの「NHK 短歌」を観ます。この番組は、全国の視聴者から送られてきた短歌の中から優れた作品を新進気鋭の歌人・杵野浩一さんが選定し、ミュージシャンの尾崎世界観さんとそのときのゲストが鑑賞するという内容です。5・7・5・7・7のたった31音から多様な解釈が、錆びついた私の感性を揺さぶってくれます。

先日の日曜日も、なぜかふっと目が覚め、寝室からのこのこと這い出て、誰もいないリビングでリモコンを操作すると、ちょうどこの番組が始まる場所でした。

今回のお題は、「おめでとう」。杵野さんが選定した作品が紹介されました。

## ① 常磐線

土浦行の終電で  
わたしが着いた  
次の年齢

東京都 世田谷区 山下ワードレス

## ② 「おめでとう」

じゃないほうなのね  
ごめんなさい  
だけど自由ね  
「おしあわせにね」

熊本県 熊本市 工藤晴美

## ③ 百年後

古典と呼ばれる  
本がきょう  
産声をあげる  
聞こえているかい

ゲスト 校正者 牟田都子

問1 これら3つの短歌が作られたそれぞれのシチュエーションを想像して説明をしてください。

問2 「おめでとう」ということばは、誕生日やお正月に過去も現在も言われ続けていますが、かつてはクリスマスにも「クリスマスおめでとう」のように言われていました。なぜクリスマスでは言われなくなり、誕生日やお正月では現在も変わらず言われているのでしょうか。

問3 問2を踏まえて、「おめでとう」ということばの本質はどこにあると思いますか。あなたの考えを述べてください。

※問1、問2、問3とも字数制限はありません。解答用紙は白紙です。それぞれの解答の文字数の分量を想定し、文字の大きさ等に留意して書いてください。裏面は使わず、表面のみでまとめてください。

2026年度 神奈川大学 総合型選抜（総合評価型）（サンプル問題）

## 【小論文】

国際日本学部 日本文化学科

〔試験時間 90 分〕

以下の文章は、2017 年 1 月 30 日の産経新聞に掲載された文章である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

事始（ことはじ）め、御身拭（おみぬぐ）い、おけら詣（まい）り、除夜の鐘に初詣、七草がゆ、初釜式…といった伝統行事は、いずれも年末年始の京都の風物詩である。同様の風習は各地で行われていただろうが、姿を消したものも多い。このうち、除夜の鐘の意外なニュースがこの暮れに注目を集めた。騒音扱いされて、突かれなくなったというのだ。さらに時間を昼間に変更したところ、参拝者が増えた。現代のライフスタイルに合わせたということだろうが、やはり本末転倒である。

そもそも鐘の音は聞くものだ。除夜の鐘は、人が持つとされる百八の煩悩を救うために鳴らすのである。参拝者に突かせてくれる寺に参るのも信仰の形の一つだろうが、自宅で鐘の音に耳を傾け、静かに一年を振り返るのもいい。むしろ、除夜の鐘を毎年聞いていたであろう不特定多数の人がいたはずだ。毎年ほのかに聞こえてくる鐘の音が聞こえなくなって、がっかりしてはいないか。

幸い、京都で除夜の鐘は風物詩であり観光資源の一つでもある。年末の新聞には毎年「除夜の鐘ガイド」が掲載され、訪れる人で各寺は大にぎわいだ。そこには騒音と思う人もいるまい。信仰が風習となって庶民に根付き、やがて文化になるという過程である。

（中略）

かつては学生は修学旅行で京都に来て、日本の歴史、伝統文化に触れた。ところが最近では行き先が京都ではなくなり、さらには日本ですらなくなっている。地域差もあるが、全国修学旅行研究協会の調べによると、平成26年度の全国の公立高校での海外修学旅行の実施率は公立高校では9・4%、私立高校では35・0%に上った。多少の増減はあるものの、この10年間は公立でも約1割、私立では約3分の1が海外旅行を選んでいる。

また、社寺を見学するのは特定の宗教を特別扱いすることになるなどという、まったく的外れな指摘もある。世界のどの国を見ても、古い固有の文化と宗教は密接につながっているものだ。日本でも、神道や仏教によって、建築や芸術、音楽などの日本文化がはぐくまれてきたことは明らかである。一例を挙げれば、華道は仏に供える仏花から、茶道は禅と深く結びついて発展してきた。それを知らずして、日本文化の本質を理解することはできない。

とはいえこんな話もある。京都市左京区の下鴨神社では、願い事を書いた絵馬の上に貼って隠す個人情報保護シールが人気だという。これも時代の流れだろう。変わっていくもの、守るべきものを見極めることが肝心だ。清少納言が「枕草子」に「近うて遠きもの」として、こう書いている。

「師走の晦日（つごもり）の日、正月（むつき）のついたちの日のほど」

同じ1分1秒でも、年越しの夜はやはり普段とは違う。この感性にこそ、日本文化の核がある。

「日本文化 守るべきもの見極めたい 変化を超えて伝統に誇りを」

（産経新聞 2017 年 1 月 3 日）より抜粋・一部修正

問1 この記事は、宗教的なものをどういふものとして位置付けていますか。100 字以内で述べなさい。

問2 下線部「この感性にこそ、日本文化の核がある」というのは、どういう意味ですか。100 字以内で述べなさい。

問3 日本独自の風習がすたれ、その担い手が減りつつある現在、どのようにして日本文化を維持・保護してゆけると思いますか。上の文章の内容と関連付けつつ、あなた自身の考えを 600 字以内で述べなさい。

## 2026年度 神奈川大学 総合型選抜（総合評価型）（サンプル問題）

## 【小論文】

国際日本学部 歴史民俗学科

【試験時間 90 分】

次の文章をよく読んで以下の設問（問1・問2）に答えなさい（文章には省略したり、表記を改めたりしたところがある）。

日本人は木とともに文化を作りあげてきた。日本列島の山々は木々に覆われ、緑にあふれた風景が広がっているが、これらの森林のめぐみを享受することで、木の文化ははぐくまれてきたといっても過言ではない。世界最古の木造建築である法隆寺金堂をはじめ、前近代の建物のほとんどが木で造られてきたことはその証しのひとつといえる。また、木とともに歩んだ長い歴史のなかで、身近な生活道具から美術工芸品に至るまで、木を扱う深い知識と高い技術を蓄積してきており、世界に誇るべき日本の文化である。

いっぽうで現代の日本、とくに都市部では鉄やコンクリートのビルやマンションが林立し、人びとは屋外を見るにもガラスの窓越し、室内を見わたしてもプラスチック製品に囲まれ、化学繊維の衣服を身にまとっている。日常生活と森や木との距離が離れているため、森林のめぐみを実感しにくいかもしれない。とはいえ、春にサクラ、秋にはモミジと、木々の告げる季節の移ろいは私たちの感性に息づいている。言葉をみても、ちぐはぐな状態を「木に竹を接ぐ」と表現したり、ハレの舞台を「檜舞台」といったりする。このように木々は今なお生活のなかに溶け込んでおり、単なる物質的な存在意義を超越して、日本の文化に深く根付いているのである。

日本では木々に限らず、そこに生きる動植物、落葉、山菜に至るまで、森林のめぐみを享受してきた。さらに保水・防風・気象緩和機能など、森林は人間に適した環境を構築する一翼を担っており、目にみえない恩恵は計り知れない。陰に日向に、森や木は生活に密着した存在であり続けているのである。（中略）

日本建築を例にとると、柱・梁などの構造材は当然として、扉や板壁などの柱間装置、そして檜皮葺や板葺のように屋根の葺材にまで、植物性の材料が使われる。とくに住宅では建具でも紙を張った明障子を用いることが多く、日本の伝統建築は木と紙でできていると揶揄されることさえある。さらに茶室や数寄屋では、木の樹種や木目はもちろん、節の位置にまでこだわって材の選択に心を配っている。船・家具などの大型の木製品、農耕具・桶・箸などの道具にも木材の使用はみられるが、まさに日本の伝統建築は木の文化の象徴的存在といえよう。

海野聡『森と木と建築の日本史』岩波新書、2022年

問1. 文章の内容を400字程度で要約しなさい。

問2. 自分に身近なモノや体験を具体例としてあげた上で、「日本人と木の文化との関わり」について自分の考えを400字程度で書きなさい。